

---

# 平面狂泳

鴉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

平面狂泳

### 【著者名】

鴉

### 【あらすじ】

放り出されたのは時計の中。  
たくさんの糸が、天井から垂れていた。

「ああ、あの時手を止めていたならば」

とある息女が引つ切り無しに 齒車を回す。  
見えない天井から 今すぐにでも切れそうな  
糸に吊るされた 齒車を回す。

氣味の悪い音をたてて 齒車は回る。

手で顔を覆いながらも 彼女は回す。

「そろそろ糸が切れそうだわ」と  
思った瞬間 糸が切れる。

息女の指に たまぐしの様に白い糸を結う。  
丁寧に リボンの形に結う。

糸の端が青く染まる。機械油に染まる。  
悲鳴がきこえた。息女は回す。

「貴方は一人なのね。可哀想にね」  
子息に言つ。笑顔で言つ。

うつ伏せのまま 彼は息女を見た。  
最初で最後の 恋だつた。

音力も増す。

タブロイド判の新聞紙に 一面の動く文字。

困る彼女 僕の隣で

「もう少し 時間があれば」 なんて  
そんな顔 見せないでくれよ・・・

息女の指に 糸を見つけた。

それは残酷なほどに 紅く 鮮やかで

「そろそろお礼を 言いたいわ」

僕に言う。何で泣いてるの  
歯車が狂う前に 急いで走るう  
一緒に居たいんだ 僕たちの  
糸が狂わない様に

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2354m/>

---

平面狂泳

2010年10月21日23時29分発行